体験や実践的な学習を通して生徒の思考力、判断力、表現力を高める工夫

～生徒がやる気になる協働学習の工夫とピア評価の充実～

和歌山県立熊野高等学校
看護科

1. 背景と目的

- 本校看護科生の特徴

素直で
情緒豊か

学習面では受動的で主
体性が乏しい

意欲を5年間継
続するのが困難

関係が乏しい生徒同士
の存在

目的：協働学習を通して看護職に必要な探求力・コミュニケーション力を育む。
看護を学ぶ楽しさを得られピアの力を信じ合えるような指導の工夫。

２．研究方法（概略）

・研究ﾃﾞｻﾞｲﾝ：量的研究

・対　　象：専攻科1年生（男子8名，女子29名，計37名）

科目名：看護の統合と実践Ⅰ

・期　　間：平成28年9月～平成29年1月

・倫理的配慮：質問紙によるアンケート

アンケートに同意したクラス全員を対象

自由意思で協力を決定

成績には影響しないことを説明

３．研究方法（詳細）

（１）TBL学習の理解

（２）コミュニケーション力を育み実践力を高める工夫

（３）互恵的関係づくりの工夫

（４）知識の統合のための工夫

３．研究方法（詳細）

（１）TBL学習の理解

導入前に生徒へ，以下の３点について説明

①進め方

②教師の役割

③授業毎に振り返りシートを記入

３－（１）①進め方

ステップ１ → 予習資料に基づく自己学習

↓

ステップ２

iRAT（個人テスト）

※　予習内容から出題された問題を個人で解答する。

↓

tRAT（チームテスト）

※　iRATの答えあわせをせずに、チームで同じ問題を解答する。

↓

アピール

※　問題や解答に対する質問や意見を発表する機会

↓

フィードバック

※　教員からの補足説明

↓

ステップ３ → 応用演習問題

３－（１）③授業毎に振り返りシートを記入

※資料1

授業振り返り記録紙

28年　　月　　日

番号（　　）氏名（　　）

1．今日の授業を振り返って、以下の問いに答えてください。
もっともあてはまる数字を次の尺度から１つ選び、（　　）に記入してください。

まったく　1　2　3　4　5　とても

授業全体について

1．（ 5 ）今日の授業の目的を、はじめにどれほど理解できましたか。
2．（ 5 ）教師の説明や指示はどれほど明確でしたか。
3．（ 5 ）あなたは、授業内容にどれほど興味・関心がもてましたか。
4．（ 5 ）あなたは、授業中どれほど真剣に考えましたか。
5．（ 5 ）あなたは、授業内容をどれほど理解できましたか。

話し合いについて

6．（ 5 ）あなたは、話し合いにどれほど参加できましたか。
7．（ 5 ）グループの仲間は、話し合いにどれほど参加できましたか。
8．（ 4 ）あなたは、話し合いにどれほど貢献できましたか。
9．（ 5 ）グループの仲間は、話し合いにどれほど貢献できましたか。
10．（ 5 ）あなたは、話し合いを通して授業内容の理解がどれほど深まりましたか。

グループについて

11．（ 5 ）あなたは、グループ活動でどれほどリラックスしていましたか。
12．（ 5 ）あなたは、グループの仲間とどれほど親しくなれましたか。
13．（ 5 ）あなたは、グループの仲間をどれほど信頼していますか。
14．（ 5 ）あなたは、このグループでの活動が好きですか。
15．（ 5 ）あなたは、このグループでまた話し合いをしたいですか。
16．（ 5 ）あなたは、メンバーから認められていると思いますか。

2．今日の授業において、自分自身の取り組みを評価してください。
（本授業のあなたの目標を振り返ってください）

前回の他グループからのアドバイスを
今回の演習の改善に活かすことができた。

3．今日の授業に関する質問、感想、意見など自由に書いてください。

色々な方向から意見を出し合うことで
看護師にとって必要な能力について理解を深めることができた。

３－（２）コミュニケーション力を育み実践力を高める工夫

事例 B
口内の発作
口腔内出血
舌上皮類粒
食事がおいしくない
1.出血
古い歯肉の易疲
クリーピ発現
経済的不安

３－（３）互恵的関係づくりの工夫

①ホームグループの編成

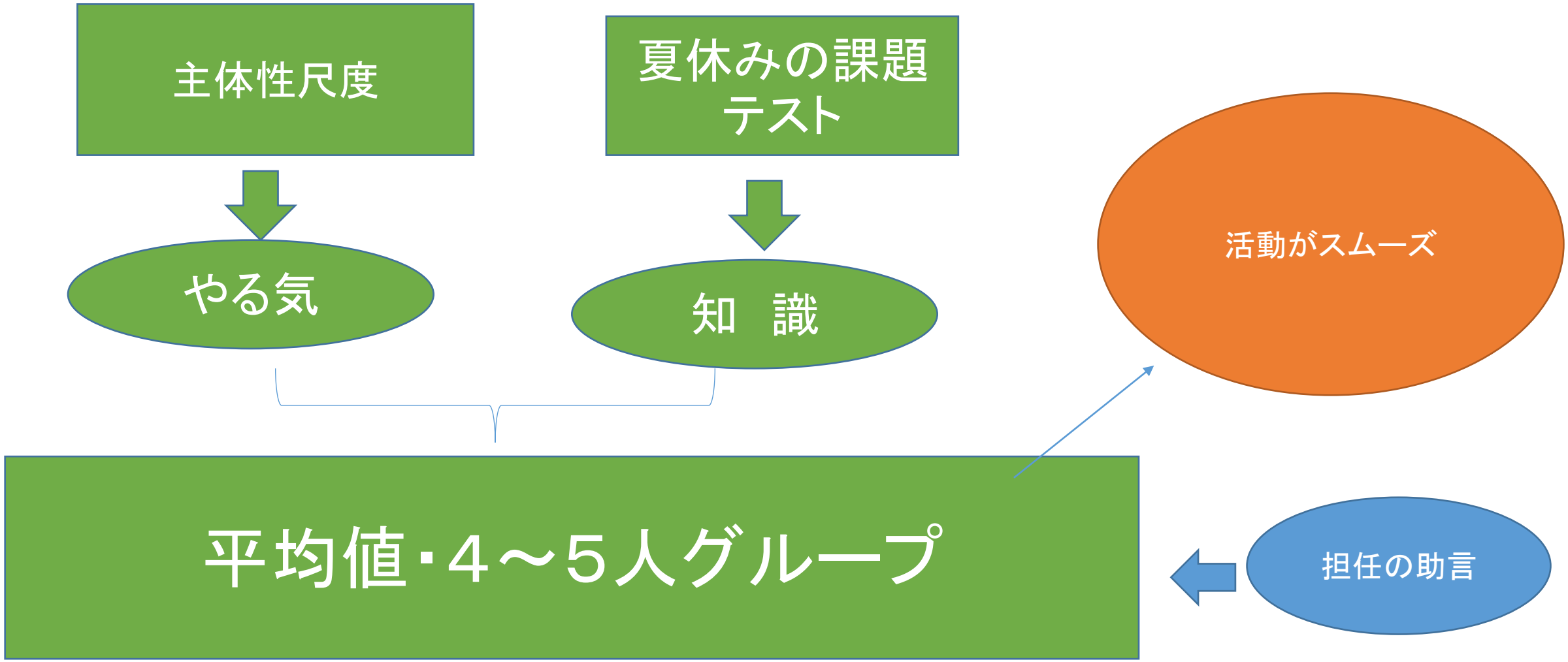
②グループのルールづくり

③振返りシートの「グループ」評価

④協同学習の効果

⑤ピア評価

３－（３）①ホームグループの編成



３－（３）②グループのルールづくり

個人の責任を
明確にする

参加の平等性
を図る

互恵的な協力
関係をつくる

3－(3)④協同学習の効果

※資料2

（　　）回協同学習振返りシート　　H（　　）年（　　）月（　　）日

以下の項目は協同作業に対する、あるいはグループで一緒に仕事をすることについての意見や感想です。これらの考えに対してあなた自身はどう思われますか。該当する思いの強さを数字の１～５の中から１つ選び、（　　）内に記入してください。

１：まったくそう思わない
２：あまりそう思わない
３：どちらとも言えない
４：多少そう思う
５：とてもそう思う

協同効用因子（9項目）

個人志向因子（6項目）

互恵懸念因子（3項目）

1．（　　）みんなで一緒に作業をすると、自分の思うようにできない。
2．（　　）グループのために自分の力（才能や技能）を使うのは楽しい。
3．（　　）一人でやるよりも協同したほうが良い結果を得られる。
4．（　　）協同は仕事の出来ない人たちのためにある。
5．（　　）グループでやると必ず手抜きする人がいる。
6．（　　）周りに気遣いしながらやるより独りでやる方が、やり甲斐がある。
7．（　　）協同はチームメイトへの信頼が基本だ。
8．（　　）弱い者は群れて助け合うが、強いも者にはその必要がない。
9．（　　）みんなで色々な意見を出し合うことは有益である。
10．（　　）能力が高くない人たちでも団結すればよい結果をだせる。
11．（　　）みんなで話し合っていると時間がかかる。
12．（　　）グループ活動ならば、他の人の意見を聞くことができるので、自分の知識も増える。
13．（　　）人に指図されて仕事はしたくない。
14．（　　）失敗した時に連帯責任を問われるくらいなら、一人でやるほうが良い。
15．（　　）個性は多様な人間関係の中で磨かれていく。
16．（　　）協同することで、優秀な人はより優秀な成績を得ることができる。
17．（　　）優秀な人たちがわざわざ協同する必要はない。
18．（　　）たくさんの仕事でも、みんなと一緒にやればできる気がする。

３－（３）⑤ピア評価

ピア評価は・・・

・チームへの貢献度を評価すること

・改善のための伝え方の練習であること

・性格や人格を評価するものではないこと

目的

「個人とチームの学習に対する責任を負う」ということを「強化」すること。

3－(3)⑤ピア評価(Koles方法)

＊資料3

チーム基盤型学習
ピア評価

評価日：(　　)月(　　)日

チーム名(　　)評価対象メンバー名(　　)

1．定量的評価(12の視点それぞれについて空欄1つにチェックしなさい)

【協力的な学習技能】	まったくない	時々ある	頻繁にある	いつもある
時間通りに着席し、課題終了までチームメンバーと一緒にいる				
積極的に耳を傾けることと発言することのバランスを取っている				
有用な、あるいは突っ込んだ質問をする				
情報や自分の理解していることを共有する				
重要な情報との関連性に気づく				

【主体的学習】	まったくない	時々ある	頻繁にある	いつもある
チーム課題に対する準備をきちんとしている				
適切な深さまで知識を掘り下げる				
知識の範囲を自覚している				
理解している範囲に自信をもっている				

【対人関係構築能力】	まったくない	時々ある	頻繁にある	いつもある
教育的なフィードバックを与える				
教育的なフィードバックを受け入れる				
他の人に気を配る				

2．定性的評価(各項につき最低でも1文は書くこと)

(1) このチームメンバーがあなたのチームに行った最も価値のある貢献を1つ述べよ。

(2) このチームメンバーがあなたのチームをより効果的にサポートするためにできたと推測される、最も重要な事柄を1つ述べよ。

３－（４）知識の統合のための工夫

①「看護の統合と実践Ⅰ」の目指すもの

②TBL学習の概要

③2つの事例

④協同学習の効果

⑤ピア評価

３－（４）①「看護の統合と実践Ⅰ」の目指すもの

【内容】

<table>
<tr><th>学習内容</th><th>学習内容ごとの目標</th><th>指導上の留意点など</th></tr>
<tr><td>ア．看護計画の
立案と評価</td><td>・設定された患者の状況に応じた看護援助を考える能力を養う。</td><td rowspan="2">・ 様々な事例に対し、その状況に応じた看護援助が考えられる能力を養う工夫をする。
・ 協同学習を取入れ、主体的な取組みが行えるような工夫をする。
・ 既習の学習内容が統合される工夫を行う。
・「看護の統合と実践実習」と関連させて、理解を深めさせる。</td></tr>
<tr><td>イ．実践への展開</td><td>・実践においてマネジメントが適切に行える能力を養う。</td></tr>
</table>

３－（４）②TBL学習の概要

TBL		活動	備考
ステップ１		予習資料に基づく自己学習	１週間前に提示
ステップ２	IRAT	個人テスト（予習資料に基づく）	
	TRAT	チームテスト（IRATと同じ問題）を意見交換し、解答を選択する。	
	アピール	クラス全体にテストに対する意見や質問を行う	
	フィードバック	教員の補足説明	
ステップ３		応用課題　（退院に向けての模擬指導）	

３－（４）③2つの事例

事例A
小児看護・母性看護・在宅看護

事例B
成人看護・在宅看護・社会保障

ステップ1　個人学習
ステップ2　準備確認
ステップ3　応用課題

３－（４）③2つの事例：事例A

- Aさん（３９歳、初産婦）は、１０年前からART療法を受けていた。先月、女児を４０週0日に自然分娩で出産。出生時体重2860グラム、アプガースコア1分後8点、5分後8点であった。生後12時間が経過し、５％ブトウ糖１０ml哺乳、3時間後に１０倍希釈のK_2シロップを与薬した。哺乳力はやや弱いが、バイタルサインに問題はない。
- 筋緊張低下がみられ顔つきが気になるため、母子同室になる前に小児科医の診察を受けた。
- 医師は、ダウン症候群を疑い両親の承諾を得て血液検査を実施した。

課題

療育手帳について
特別児童扶養手当について
乳児期の成長発達、子育てについて

３－（４）③2つの事例：事例B

- Aさん（48歳、女性）は、重症筋無力症を5年前に発症し、初期から副腎皮質ステロイドの内服治療を受けて自宅で生活している。現在は、眼瞼下垂、複視および上下肢の筋力低下がある。日中は、時間をかければ身の回りのことはできている。月１回の外来受診は強い疲労を伴う。夫とは離婚し、高校生の長女と2人で暮らしている。現在、在宅でIT関係の仕事をしている。疲労感が強くなり今後、仕事を続けていけるのか不安を感じている。

課題

・特定疾患治療研究事業について
・医療保険について
・クリーゼに対する治療・看護

３－（４）③2つの事例：IRAT個人テスト

- 事例A
- 問題　療育手帳について、誤っているものを選びなさい。

１．知的障害のある方が対象である。

２．療育手帳制度は障害者自立支援法によって定められている。

３．受けられるサービスは地域によって異なる。

４．療育手帳をもつ20歳未満の児童を養育している保護者は、申請により特別児童扶養手当を受けることができる。

- 事例B
- 問題　難病について誤っているのはどれか。

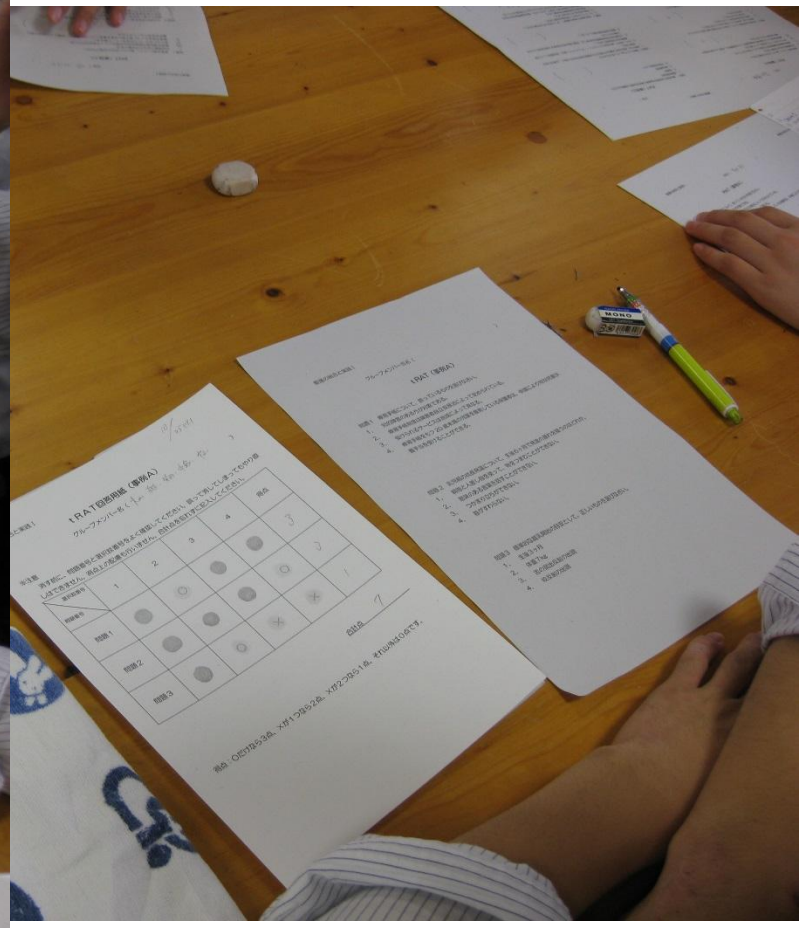
１．難病とは、原因不明で治療法が未確立かつ後遺症を残すおそれが高く、比較的に稀な疾病である。

２．がん、脳卒中、進行性筋ジストロフィー、アルツハイマー病は、指定難病としての医療費助成の対象疾患ではない。

３．小児慢性特定疾病医療費助成制度では、児童の健全育成を阻害する慢性疾患にも力点が置かれている。

４．難病の診断技術は確立していない。

３－（４）③2つの事例：TRATの実際



３－（４）③2つの事例：アピールの実際

３－（４）③2つの事例：応用演習課題

事例A

＊資料4

- 　その後、ダウン症候群であると診断された。心室中隔欠損を合併しているが治療の必要はない。女児は7ヶ月となり、ある日38℃台の発熱と咳が出現、40℃に上がり肺炎と診断され入院となる。ペニシリン系抗生物質や吸入の治療をうけ症状が緩和する。
- 退院にあたり、Aさんは「初めての育児で不安でしたが、少しずつ慣れてきました。でも、今回のようなときは、本当に驚きました。今後の子育てについてはわからないことも多くて不安です。」と訴える。Aさんの夫は、「私は仕事が忙しく、家を留守にすることが多いです。僕も妻も出身が他県なので親戚、友人も近くにいないので、妻と子どもは自宅で過ごすことが多く、心配です。」と、妻のことを心配している。また、「子どもも、治療の必要がないと言われていますが、心臓にも問題があるようで・・・。10年前からART療法を受けて貯金をほとんど使ってしまってるし、これからこの子にいろいろお金もかかるだろうし、心配です。」と、今後のことも心配している。
- 女児は常に口を開け、舌を出している。乳歯はまだ生えていない。首はすわっているが、支えなしでお座りはできない。体重6,850g、哺乳量は650～700ml/日である。まだ離乳食は開始していない。

３－（４）③2つの事例：応用演習課題

事例B

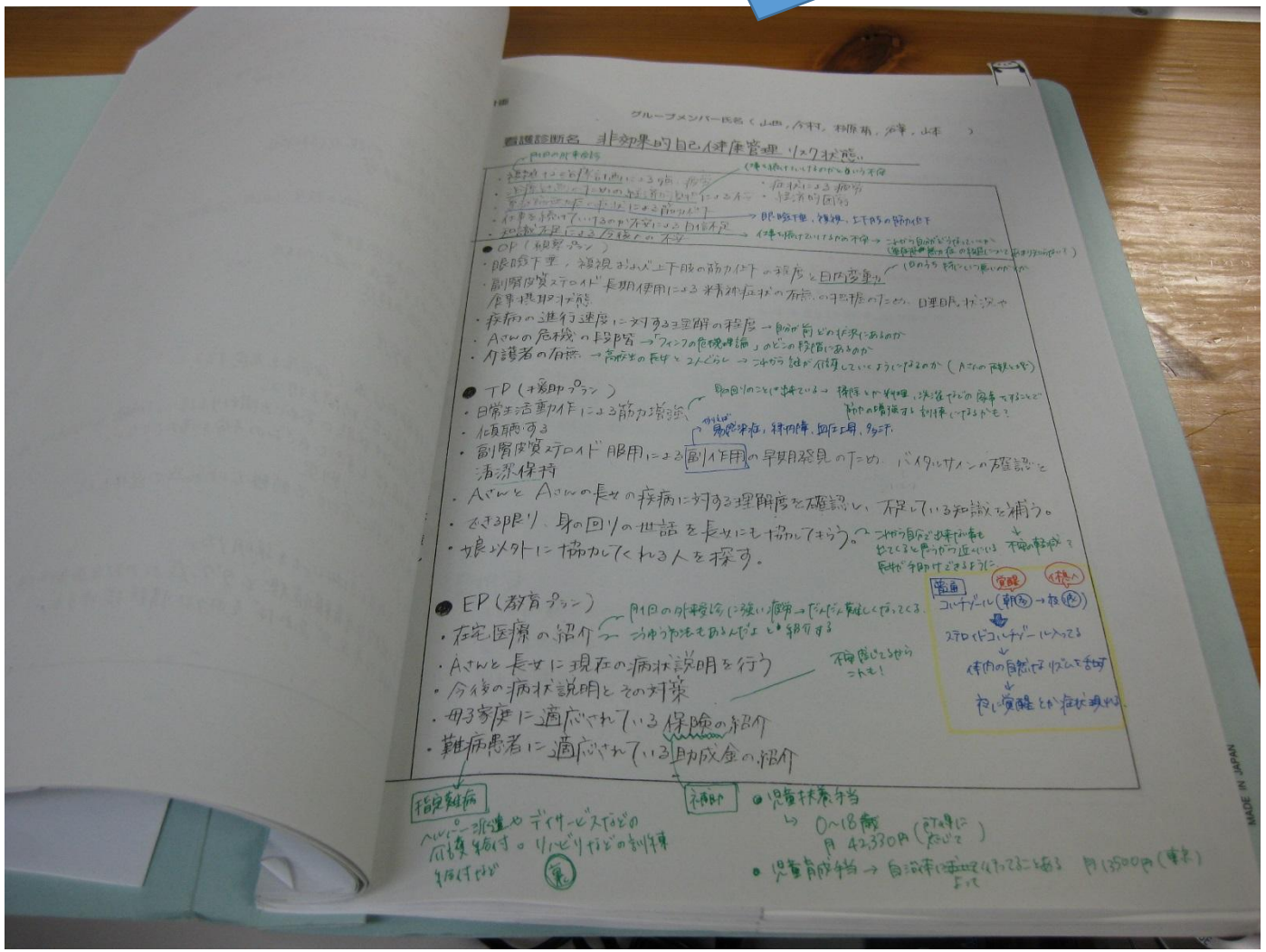
＊資料5

- Aさんは「最近、口の中が痛いし、食事もおいしくない」と言う。口角に発赤があり、舌、上口蓋および頬粘膜に白色のものが付着して、その一部に出血がみられるなど、体調不良を訴えることが多くなってきた。さらに、舌・咽頭筋の易疲労性による嚥下障害、咀嚼障害、構音障害などもみられるようになった。ある日、突然呼吸ができなくなり、緊急入院した。しばらく、人工呼吸器にて呼吸管理を行っていたが、気管内挿管が長期になってきたため、気管切開術を行った。現在は呼吸状態も安定し、人工呼吸器からも離脱し、スピーチカニューレを装着することで、会話も可能になった。Aさんは、娘のことを大変気にしており、「できるだけ娘との生活を続けるために私も頑張らなくてはいけないと思っている。」と、今後、在宅で生活することを強く望んでいる。ただ、一方で、「仕事も今後はできないし、この先二人で生活していけるか。お金もかかるし。」と在宅で生活することの不安をたびたび話している。医師からは、今後も呼吸状態が悪化する恐れがあるため、気管切開はしたままで、在宅に戻った方が良いのではないかと本人に説明されている。本人は、疲労感も強いため、車いすを使っている。食事は、現在のところ経口摂取ができている。

３－（５）自己肯定感を高めるための工夫

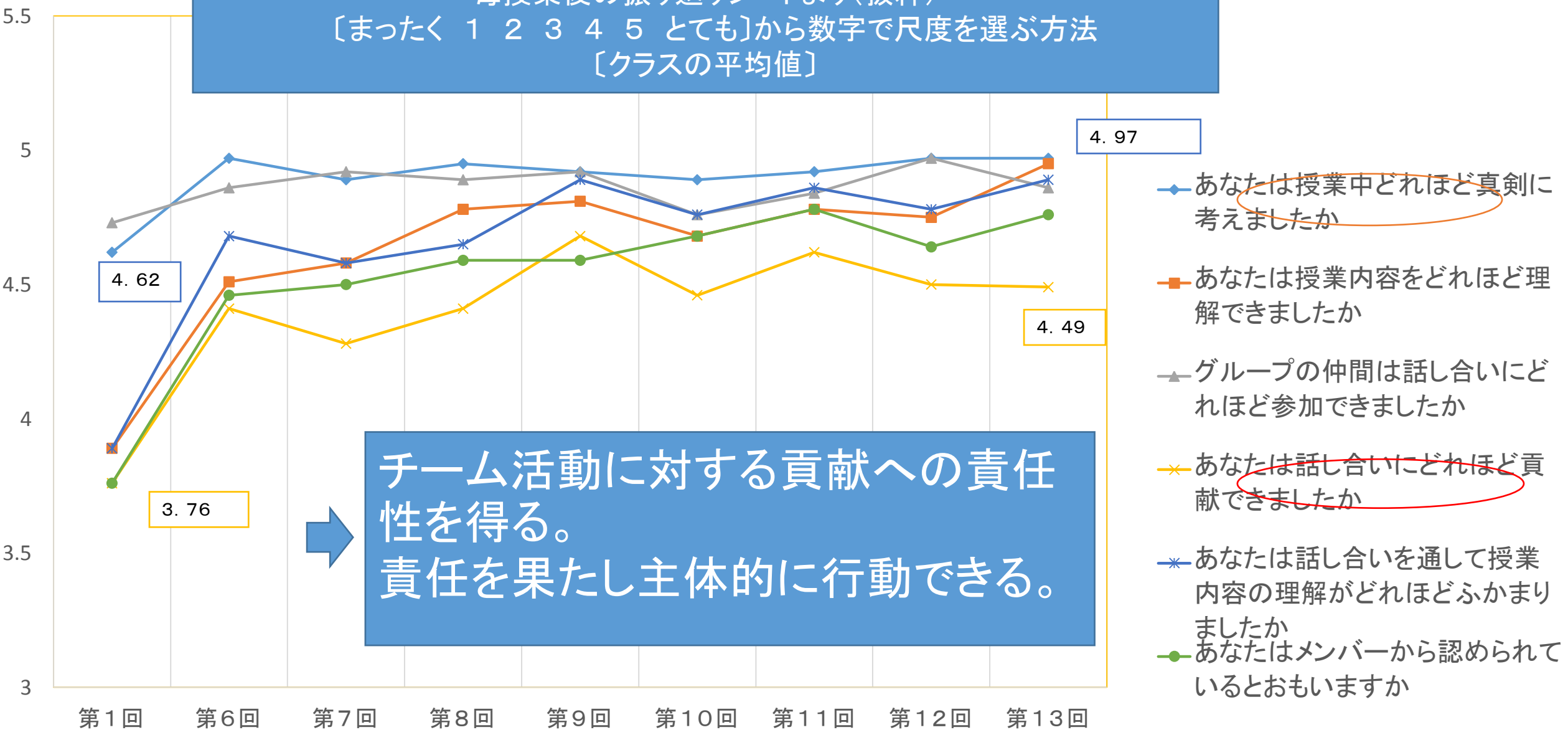
ポートフォリオ

自分で調べ考えたことを保存し、何度も繰り返し見ることができ、自己の課題に気づくことができる。



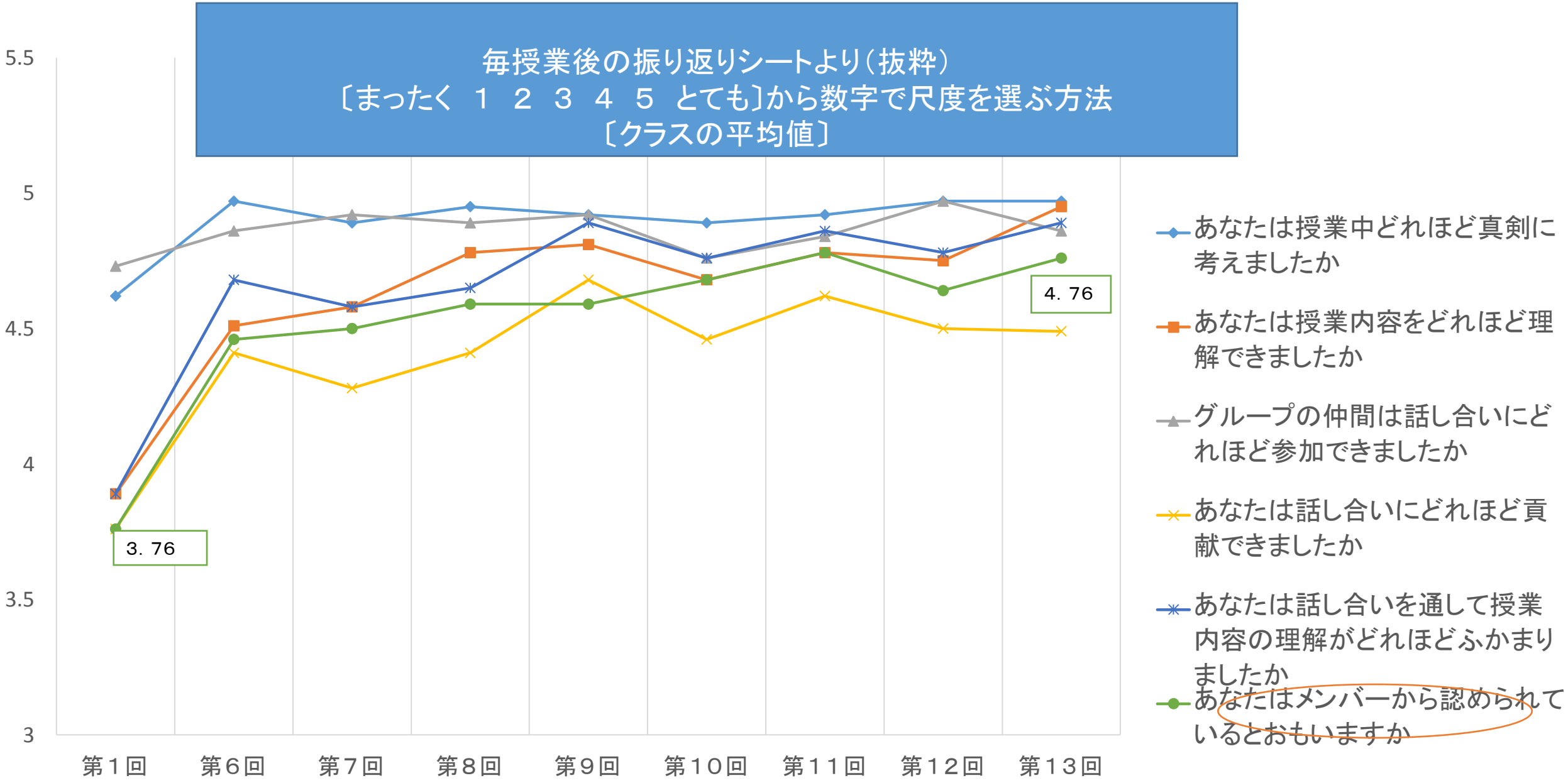
4．研究結果

毎授業後の振り返りシートより（抜粋）
〔まったく　１　２　３　４　５　とても〕から数字で尺度を選ぶ方法
〔クラスの平均値〕



チーム活動に対する貢献への責任性を得る。
責任を果たし主体的に行動できる。

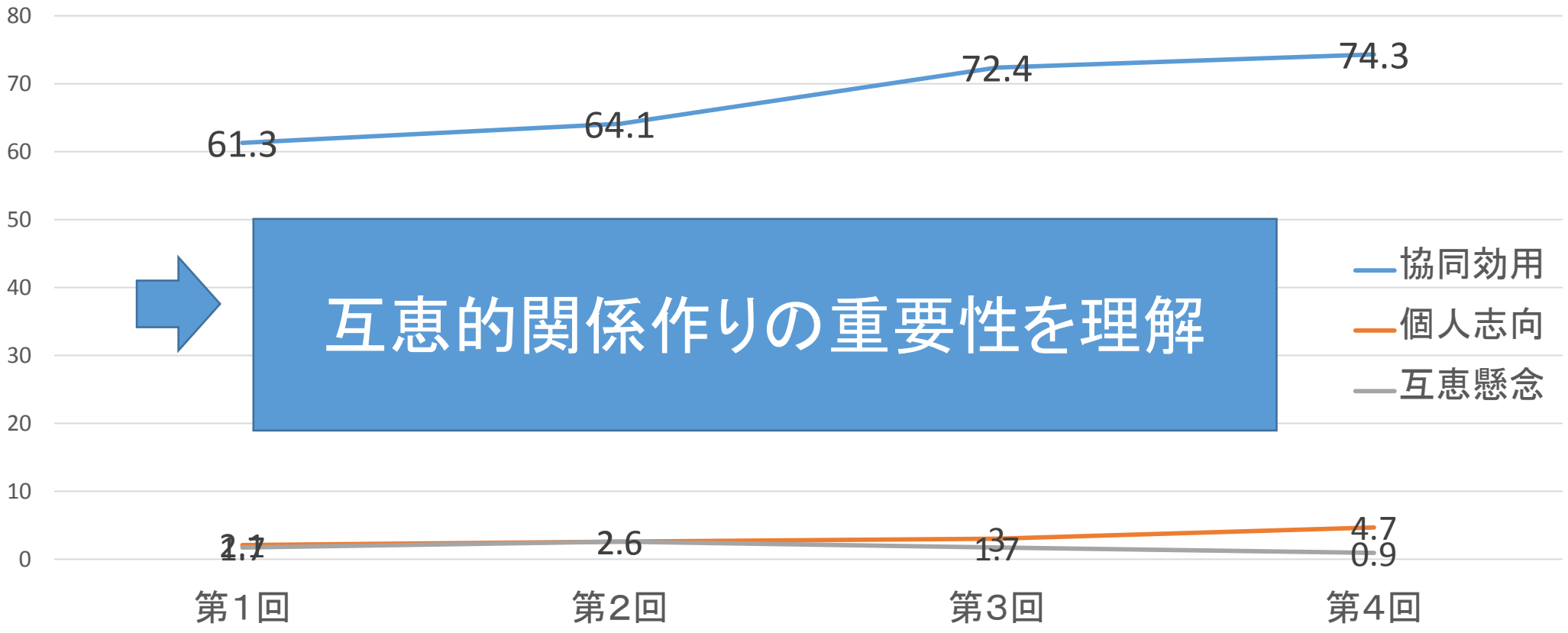
4．研究結果


毎授業後の振り返りシートより（抜粋）
〔まったく　１　２　３　４　５　とても〕から数字で尺度を選ぶ方法
〔クラスの平均値〕
5.5
5
4.5
4
3.5
3
3．76
4．76
第１回
第６回
第７回
第８回
第９回
第１０回
第１１回
第１２回
第１３回
あなたは授業中どれほど真剣に考えましたか
あなたは授業内容をどれほど理解できましたか
グループの仲間は話し合いにどれほど参加できましたか
あなたは話し合いにどれほど貢献できましたか
あなたは話し合いを通して授業内容の理解がどれほどふかまりましたか
あなたはメンバーから認められているとおもいますか

4. 研究結果

協同認識尺度より（抜粋）各問いに対する「とてもそう思う」の割合

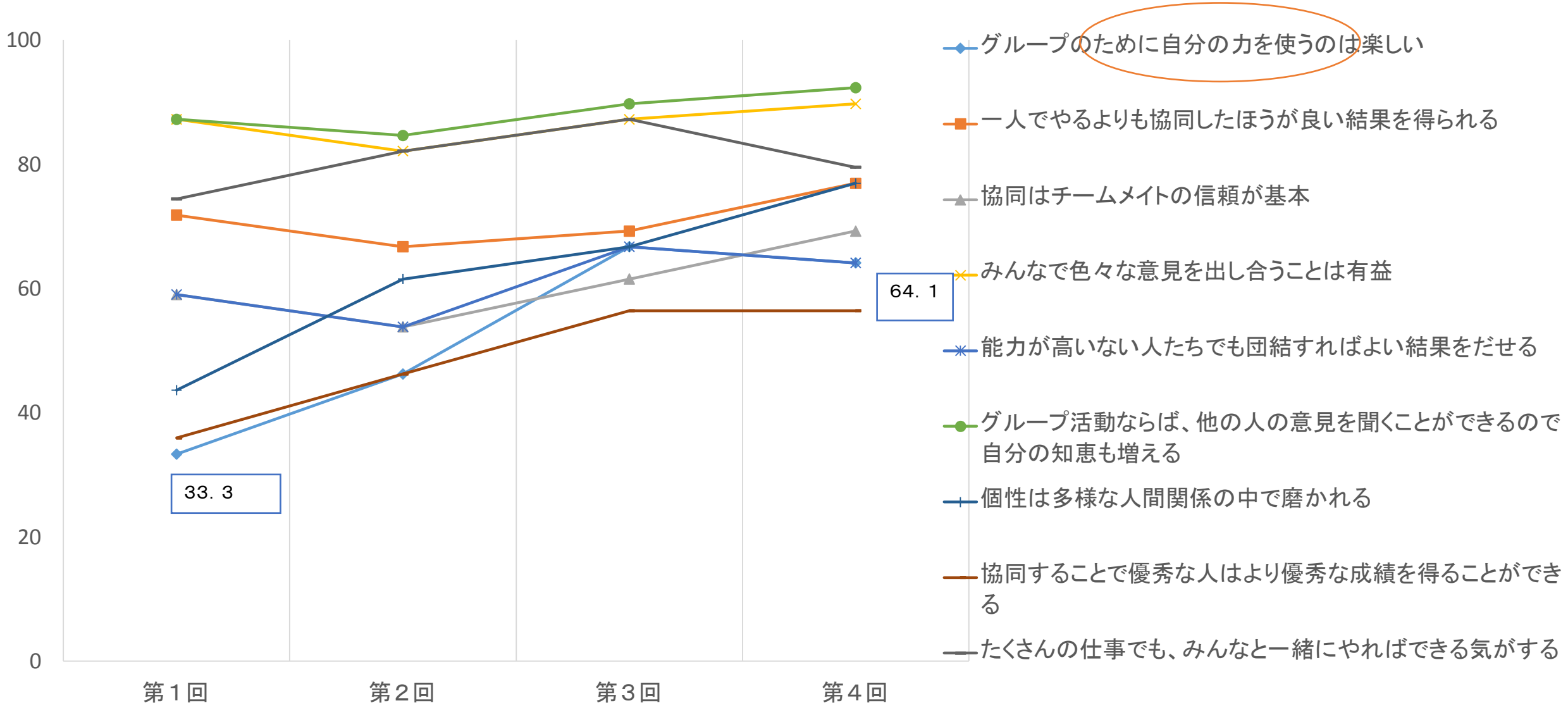
1　まったくそう思わない
2　あまりそう思わない
3　どちらとも言えない
4　多少そう思う
5　とてもそう思う



互恵的関係作りの重要性を理解

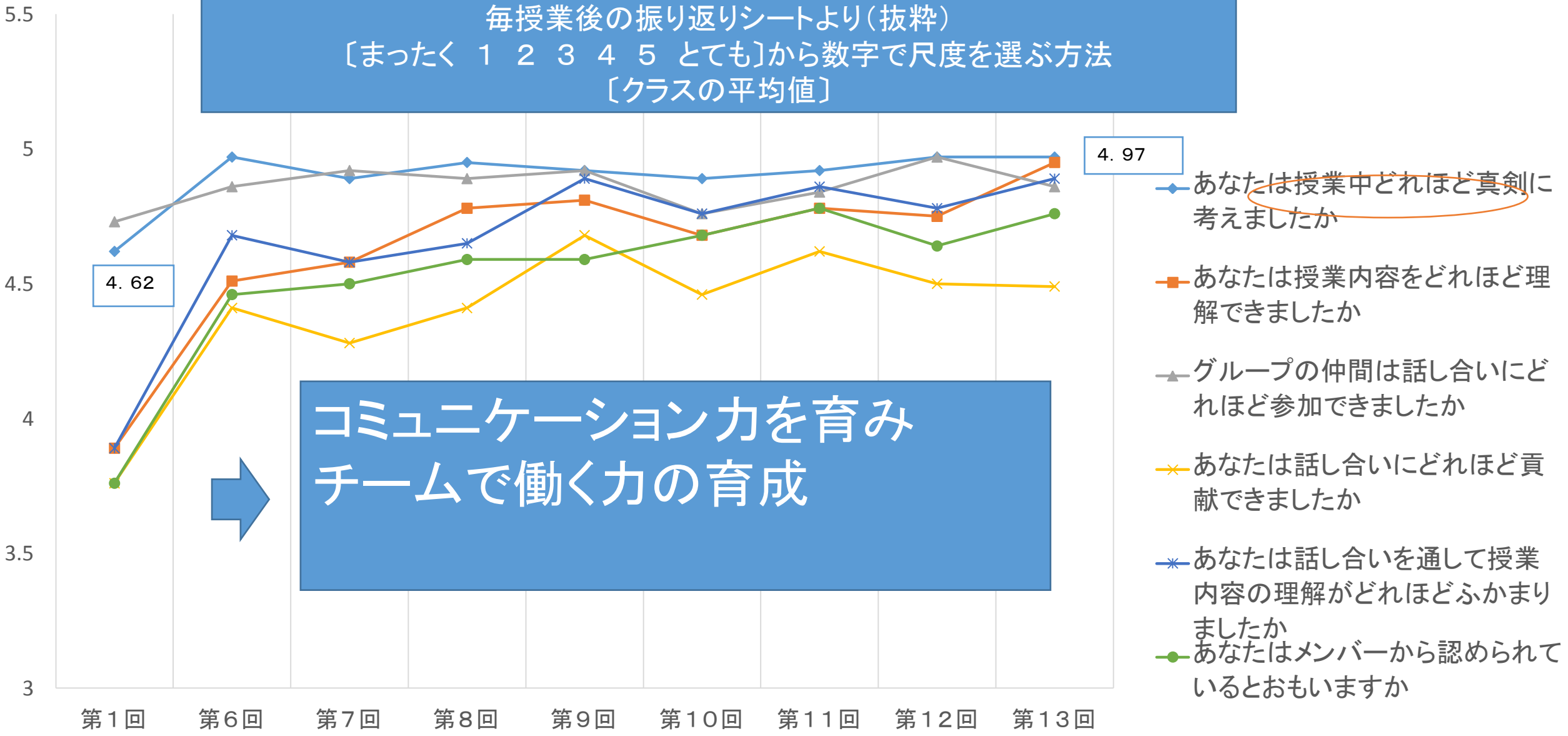
4．研究結果

協同認識尺度より（抜粋）
協同効用因子（9項目）の各問いに対する「とてもそう思う」の割合



4．研究結果

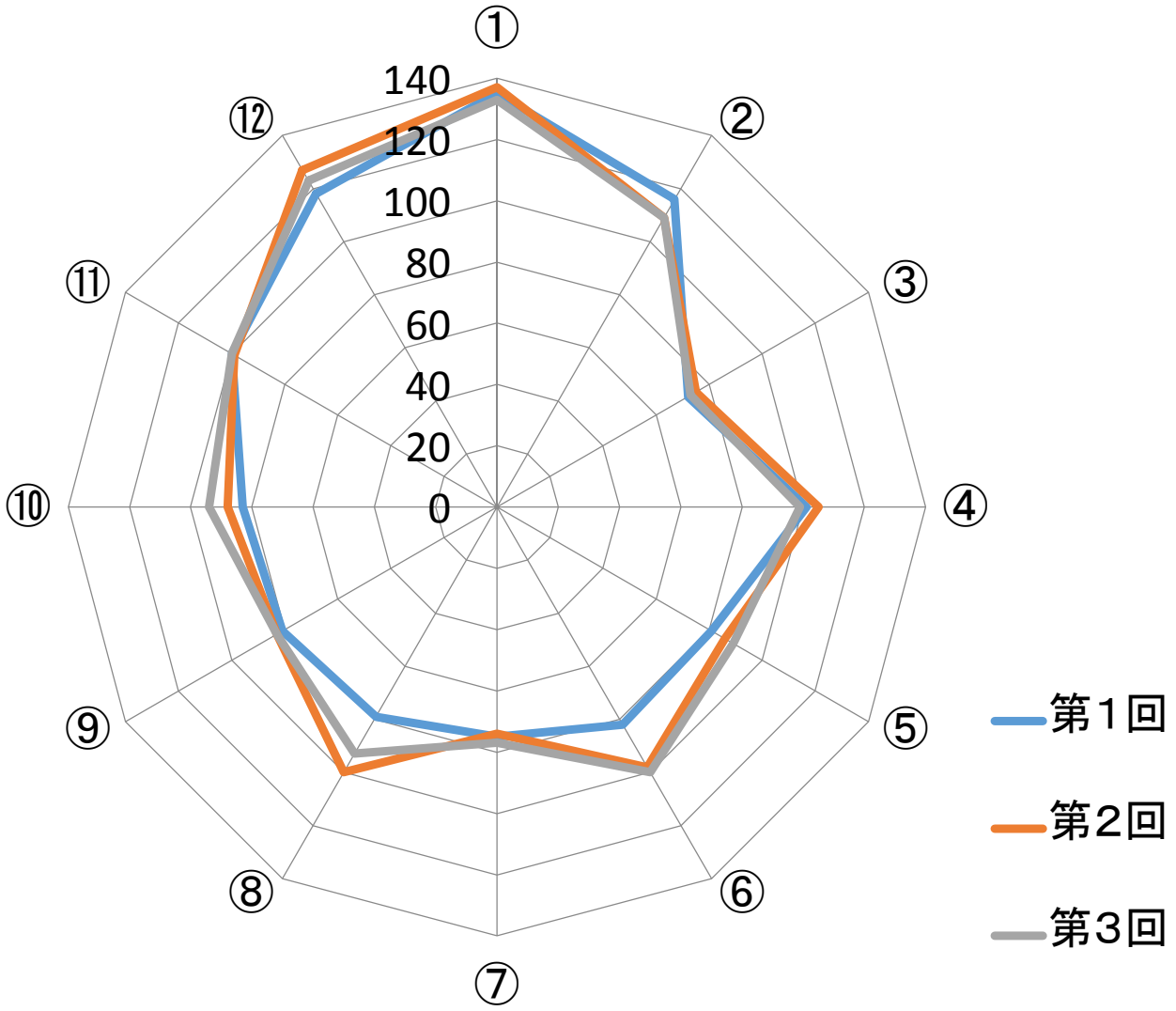
毎授業後の振り返りシートより（抜粋）
〔まったく　１　２　３　４　５　とても〕から数字で尺度を選ぶ方法
〔クラスの平均値〕



コミュニケーション力を育み
チームで働く力の育成

4. 研究結果　ピア評価

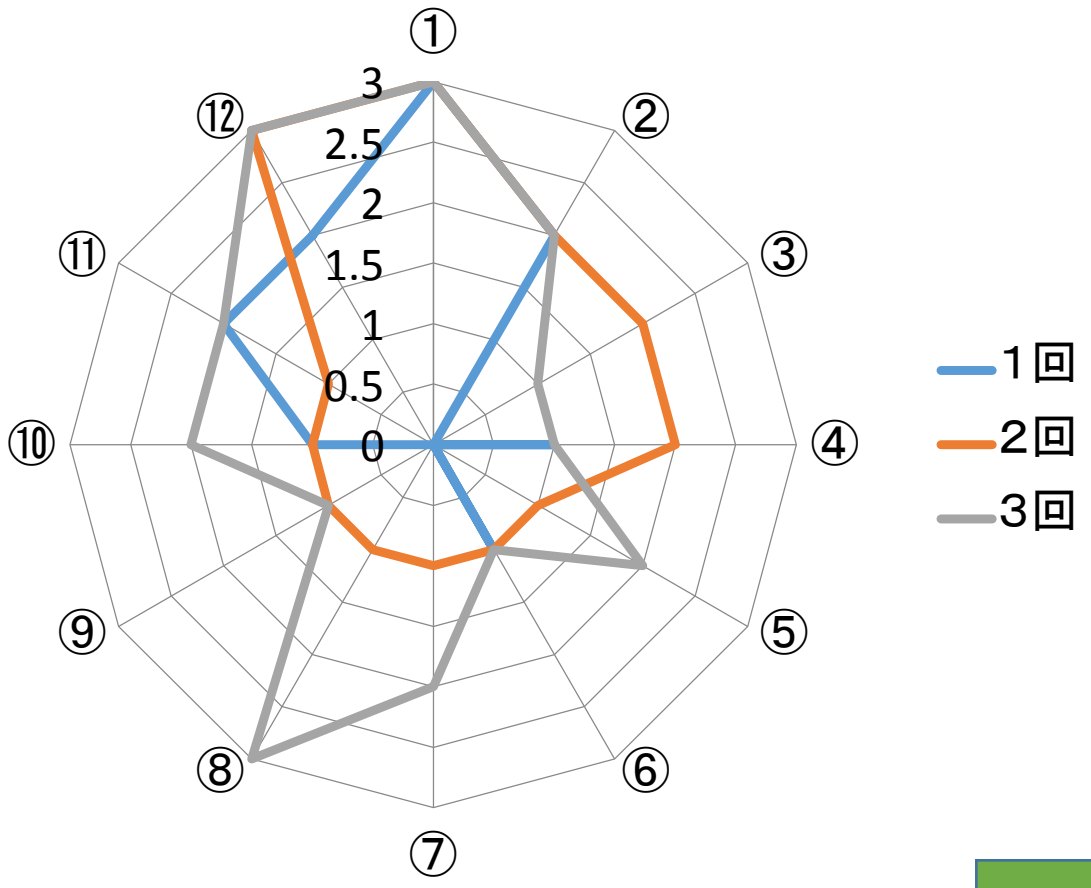
（定量的評価）［まったくない　時々ある　頻繁にある　いつもある］から「いつもある」の総人数



①時間どうりに着席し、課題終了までチームメンバーと一緒にいる。
②積極的に耳を傾けることと発言することのバランスを取っている。
③有用な、あるいは突っ込んだ質問をする。
④情報や自分の理解していることを共有する。
⑤重要な情報との関連性に気づく。
⑥チーム課題に対する準備をきちんとしている。
⑦適切な深さまで知識を掘り下げる。
⑧知識の範囲を自覚している。
⑨理解している範囲に自信をもっている。
⑩教育的なフィードバックを与える。
⑪教育的なフィードバックを受け入れる。
⑫他の人に気を配る。

6. 研究結果

（定量的評価）[まったくない　時々ある　頻繁にある　いつもある]から
「いつもある」の総人数　個人



①時間どうりに着席し、課題終了までチームメンバーと一緒にいる。
②積極的に耳を傾けることと発言することのバランスを取っている。
③有用な、あるいは突っ込んだ質問をする。
④情報や自分の理解していることを共有する。
⑤重要な情報との関連性に気づく。
⑥チーム課題に対する準備をきちんとしている。
⑦適切な深さまで知識を掘り下げる。
⑧知識の範囲を自覚している。
⑨理解している範囲に自信をもっている。
⑩教育的なフィードバックを与える。
⑪教育的なフィードバックを受け入れる。
⑫他の人に気を配る。

→ 主体的学習人間関係構築力の向上

4. 研究結果　ピア評価（定性的評価）

〇このチームメンバーがあなたのチームに行った最も価値のある貢献を一つ述べよ。（一部抜粋）

・Aさんの心理面について教科書を使って説明してくれたり、図や表をみせながらAさんの適応や承認の心の状態を説明してくれた。

・指導の内容の進め方を客観的に考えてくれた。進め方がおかしかったらおかしい、と注意してくれた。指導案作成では、すごく頑張ってくれた。ありがとう。

・とにかく積極的にテキパキ行動してくれる。話し合いがいつもスムーズにすすむ。

・誰よりも早くひらめいたり、バラバラな意見を簡潔にまとめてくれたりする。

・シナリオ作成でどう書こうか悩んでいた時、「〇〇すればいいよ。」と提案してくれたこと。

・「この作業したらいい？」といつも確認してくれたので、こちらも誰がどの役割をするのか把握できてよかったです。チームを頼ってくれたのもよかったです。

4. 研究結果　ピア評価（定性的評価）

〇このチームメンバーがあなたのチームをより効果的にサポートするためにできたと推測される、最も重要な事項を一つ述べよ。（一部抜粋）

・もっと自分の意見に自信をもって貫き通すことも全然大丈夫だと思います。

・一人で考えている時がたまにあるので、そのときもチームに言葉として伝えればより良くなると思った。

・書くこと以外に、自ら考え発言して欲しい。

・色々な事に気がつけたり自分の意見も述べていてとても貢献していると思います。事前学習をしてこの事を根拠にまた自分の意見を話せたらとてもすごいと思います。

・一つのことに縛られず、さまざまな視点で考える。でも、一つに縛るのが悪いわけではなく、良い時もあるので、臨機応変にいく。

・知識はたくさん持っていて、自分の意見に自信を持つことができたら効果的。

４．研究結果　ピア評価同日の授業振り返り記録紙から（一部抜粋）

- グループメンバーに評価されてどきどきした。貢献できたみたいで良かったし、これからも自分にできることをがんばろうと思った。
- ピア評価で思ったことを素直に書けた。書いてもらったのを見て改善するべきとこは改善したい。
- チームのピア評価をしっかり受け入れ、もっと良いチーム関係を築いていきたいです。
- ピア評価することによって、もっと仲がよくなれる気がしました。

↓

自己肯定感・チームで働く力の向上

小児医療保育護各論
在宅看護論

5. 考察

TBL学習法

①各自の責任が明確となりチーム活動への責任性を得ることができる。

→自己学習とチームへの学習に対して、責任感をもって主体的に進める「責任性」が生まれる。

②事前学習の重要性を理解することができる。

→準備状態を整えて授業に参加することが、個人やチームの授業での活動性に影響する。

③客観的に他者を理解し、互恵的関係づくりの重要性を理解できる。

→ピア評価を行うことで客観的に他者を見ていくことができ、「責任性」が意識でき信頼性に繋がる。

④自己発信することで新たな自分を振り返ることができ自己肯定感を高めることができる。

→学習活動の中で自己発信の機会を多く与える。

↓

コミュニケーション力・チームワーク力の向上

6. 課題

＊資料6

フィンクの危機理論

グループメンバー（　　）

「フィンクの危機の定義」

「その人の対処反応のレパートリーが、ストレスを解決することにおいて不十分である緊急状況の体験」＝危機

つまり、その個人が急に襲ってきた衝撃的な状況に対してこれまでの自分の経験から得てきた対処方法をあれこれ駆使しても、解決することが難しい状況の体験のこと。

【衝撃】

・強烈な不安　・パニック　・無力感　・思考の混乱
・胸苦しさ，頭痛　・嘔気などの身体症状の発現

その個人が、今現在、自分の身に危険もしくは、その徴候が襲っているということに気づいたときにこの時期が始まる。
この時期は、患者の気持ちを受け[illegible]守る
あるいは傾聴する。

【防御的退行】

・現実を回避：否定　・無関心　・願望思考
・身体症状の回復

ショックを受けたことは知覚しているが、それに伴う圧倒的な混乱に耐えることができない時期。
この時期は、患者のありのままを受けいれて傾聴し、支持する。

【承認】

・自己イメージ喪失，悲痛　・深い抑うつ　・無感動
・強い不安　・混乱

初めは変化の本質を理解するのにショックの段階と同じような混乱と無力感を伴って、計画的な思考はできないが、徐々に、新しい変化した現実を知覚し、自分自身を現実に合うように再調整していく。この時期に極度の動揺と自分自身に対する価値の喪失感によって、圧倒されてしまうと、自殺を企てることがある。現実を承認し[illegible]

[illegible]の不安を和らげるための補償的経験が減少する。
専門的な知識と確かな技術で、患者の自立を援助する。

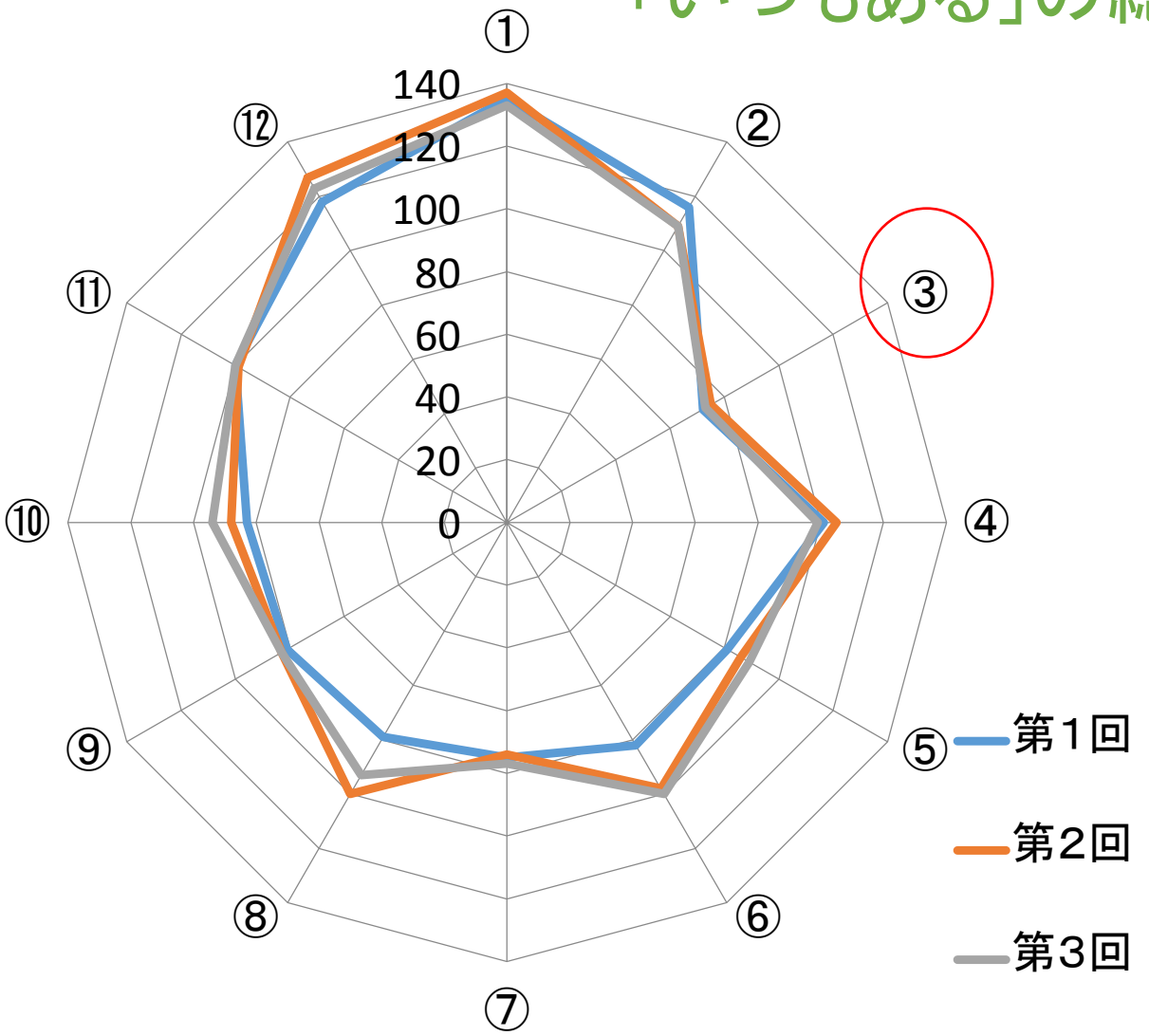
内容が画一化

参考文献・資料

臨床看護学概論（臨床看護学セミナー1）
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断

6. 課題　ピア評価

（定量的評価）［まったくない　時々ある　頻繁にある　いつもある］から「いつもある」の総人数



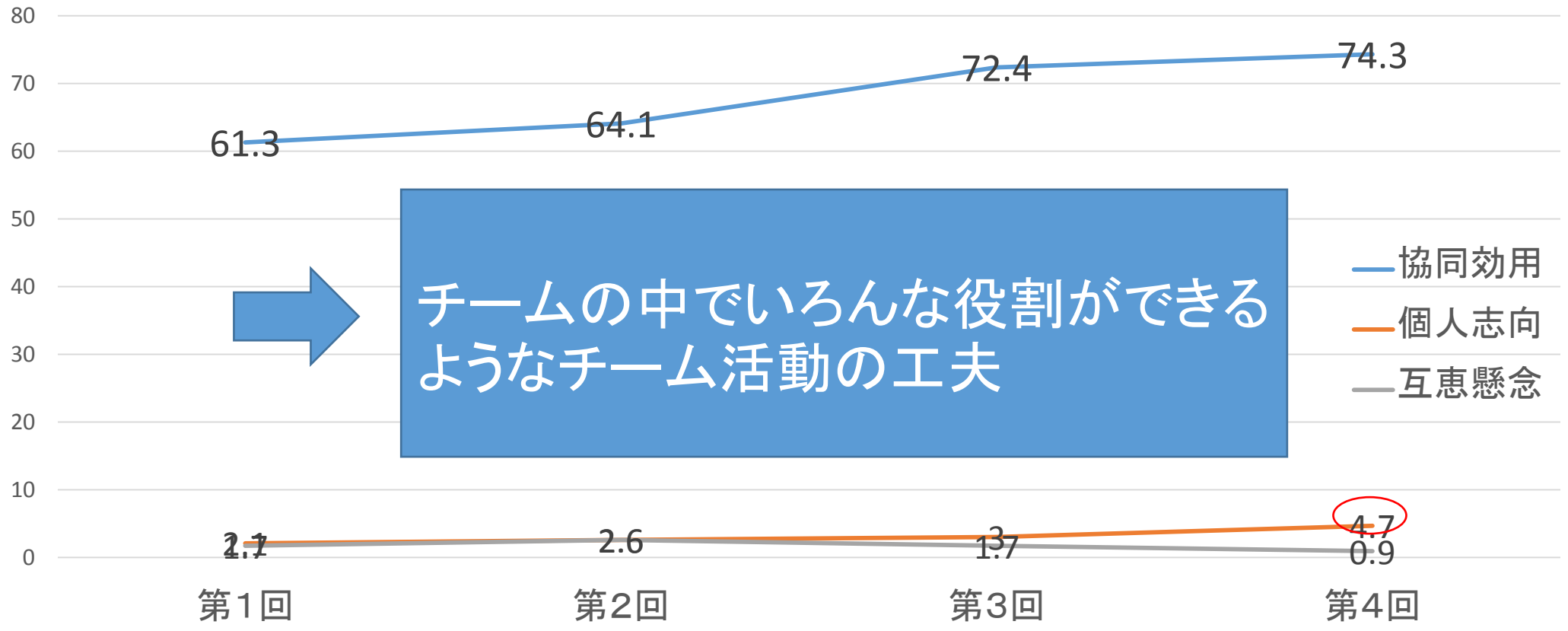
①時間どうりに着席し、課題終了までチームメンバーと一緒にいる。
②積極的に耳を傾けることと発言することのバランスを取っている。
③有用な、あるいは突っ込んだ質問をする。
④情報や自分の理解していることを共有する。
⑤重要な情報との関連性に気づく。
⑥チーム課題に対する準備をきちんとしている。
⑦適切な深さまで知識を掘り下げる。
⑧知識の範囲を自覚している。
⑨理解している範囲に自信をもっている。
⑩教育的なフィードバックを与える。
⑪教育的なフィードバックを受け入れる。
⑫他の人に気を配る。

肯定的な意見交換が多く
初めに意見を言った人に同意する人が多い。

6. 課題

協同認識尺度より（抜粋）各問いに対する「とてもそう思う」の割合

1　まったくそう思わない
2　あまりそう思わない
3　どちらとも言えない
4　多少そう思う
5　とてもそう思う



チームの中でいろんな役割ができるようなチーム活動の工夫

7. 次年度に向けての課題

一つの視点でしか考えられない、グループ活動の役割が限定されている

↓

事前学習や学習活動の工夫

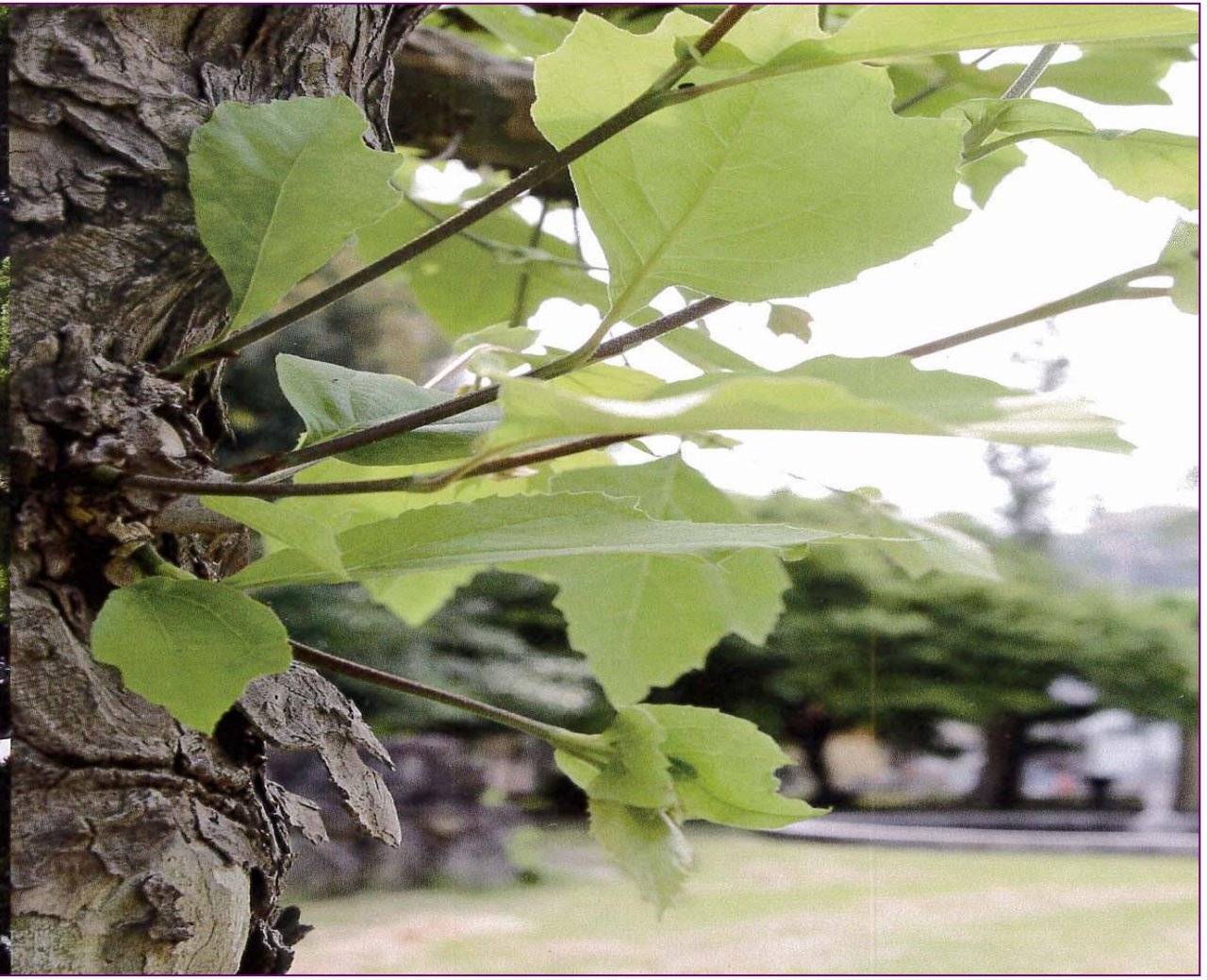
８．参考文献

〇浅海健一郎　　「主体性尺度」 2009九州大学心理学レポート
こどもの主体性と適応感の関係に関する縦断的研究

〇安永悟・長濱文与　「協同認識尺度」 2009協同作業認識尺度の開発
教育心理学研究

〇五十嵐ゆかり　　「トライ　看護にTBL　チーム基盤型の基礎のキソ」

〇緒方巧　　「看護学生の主体性を育む協同学習」

〇東京アカデミー　　「２０１６年看護師国家試験対策
第１回　全国公開模擬試験」

ご清聴ありがとうございました